

会 議 報 告 書

主催者名	匹見総合支所住民福祉課
会議名	平成 25 年度 第 1 回 匹見地域協議会
開催日時	平成 25 年 4 月 24 日（水） 14 時 00 分～
開催場所	益田市匹見総合支所 大会議室
出席者	匹見地域協議会委員（10 名） 別紙のとおり 匹見総合支所：長谷川支所長 住民福祉課：靱田課長、藤井補佐、三嶋 地域づくり推進課：村上課長 建設課：露口課長

会議録

◎藤谷顧問より辞令書を一人ずつ手渡し
【報告事項】
(1) 支所新体制について<資料 1 靱田課長より説明>
◎配置図をもとに説明
《質疑》
■正規職員数が前年度と比べ 1 名減となっているが？3 課体制にする際、人は減らさないという約束だったと思うが？
→下地区振興センターの職員が引き揚げたため 1 名減となっている。支所庁舎内では例えば課長が 1 人減った分はきちんと補充されており、職員数は維持できている。
■匹見地域全体での職員数で考えた場合、1 名減は 1 名減。その分はきちんと要求していくべき。
→それぞれ必要に応じて要求しているし、これからも要求していく。
(2) 平成 25 年度主要事業について<資料 2 各課長より説明>
■匹見地域福祉生活支援事業について、具体的にどういった場合に対象となり、利用に制限などあるのか？
→65 歳以上が基本。ただし、近所に親せきがいる場合などに除外となる。支援内容など個別に相談いただければ応じる。

■まちづくりコーディネーター事業について、今年度美都地域にも導入されると聞いた。ただし市の予算から。匹見は基金事業なのに美都は単費というのは不均衡ではないか。おなじ益田の事業であるならば美都と同じ取扱いにすべき。

→すでに議会でも相当議論されている。今後取り扱いについては検討していくことになるが、考えられる手法としては決算時の財源振替などがある。市長や財政当局と話を詰めているところ。

■そもそもコーディネーター制度と地区振興センターの職員引き上げはリンクしているはずだが？3地区の職員を引き上げたときにはコーディネーターを設置するという約束がある。このコーディネーターとは違う話なのか？

→違う。しかし、まちづくりコーディネーター事業に関しては、最終的に財源振替ができる方向で検討はしている。美都と同様政策的経費で措置すべきという認識でいる。職員引き上げ時のコーディネーター配置については、地域振興課に再度確認したい。

■まちづくりコーディネーターは今ある程度の年数が経過している。本当に必要なのかどうかも含めここで一度検証するべきではないか？

■その意見に関連して、コーディネーターに、一言言いたいことがある。

→あとで直接担当課長を交えて話を聞かせていただきたい。

■有害鳥獣対策事業について、5~6年前に設置した電気牧柵が老朽化している。以前県に相談したところ新年度支所で対応するという回答があった。このことはこの事業に含まれているのか。課長はその経過を知っているか？

→匹見地区をモデル地区として県と一緒にプロジェクトを展開したところ。県は毎日点検しており、電気が届いていない箇所も確認している。電源設置の手法等々含め検討しているところで、その検討結果を踏まえて地元で協議に入りたい。なお、今年度の事業費の中には、今後の対策経費は含まれていない。特別モデル事業として展開しており、県が主体であるので市が負担することにはなっていない。

■わさび生産活動事業費は5年事業で5年間、基金事業にしているが、来年度以降事業変更をすることはできるのか？人を雇用するのに変更などできるのか？

→3月にわさび振興協議会を立ち上げ、その中にプロジェクトチームを設置する。今言われた件はこのプロジェクトチームの中でしっかりと議論していただく考え。人的支援である委託業務は4年の計画。今後想定される莫大な事業に対応するためマンパワーは必要だと思っている。

■ そのわさび振興協議会の母体はわさび生産者組合でいいか？

→ はい。

■ わさび事業について、事業が細分化されているがもう少し精査できないものか。また国の補助がとれるものについては基金を充当しなくてもいいのでは？

→ 今後しっかりと精査していきたい。

■ わさび加工場について。JAが合併を2年後に控え、加工場も6次化対応にする意向がある。生産者も高齢化しており、時間的余裕はないと思う。そうしたことを踏まえても早急に方向性を出すべき。また行政とJAと生産団体がきちんと情報共有し、わさび振興を図る上で欠かせない生産農家の増収につながる事業展開をしてほしい。

→ プロジェクトでしっかりと議論させていただきたい。

■ わさび加工場の売り上げ状況はどうなっているのか？

→ 匹見産のわさびしょうゆ漬けは数量が限定されており、販売店が限られているのが現状。また加工場は金印製品も作っており、匹見ブランドで流通していない。今後付加価値をいかにつけ生産農家に還元していくかをわさび振興協議会の中で議論していきたい。

■ バイオセンターについて。センター職員と生産農家がかみ合っていないような気がする。施設の在り方についても見直してもいいのでは？職員の危機感も足りないと思う。

→ (委員より) バイオセンターは水系ごとの苗を研究して供給することに意味がある。だから必要な施設。

■ であれば職員ももっと研鑽すべき。

→ 厳しく指導していきたい。またわさび振興協議会の中でも存在意義含めしっかりと議論したい。

■ 除雪車の配置は？管理方法は？

→ 具体的には澄川と野入周辺、広瀬。管理については現在検討中。

■ 除雪機が新調されても厳しい入札により業者が減っている。対応できるのか。万が一大雪が降った場合などでもきちんと対応できるよう、業者を守る意味でも入札時に地元業者優先できないものか。

→ 現在の入札制度は均等・公平ということで導入されているもの。しかし地域によってはそのことが大きな弊害を生み出すこともある。今後、そうしたこともこの地域協議会で協議をし、意見を出してもらいながら検討していきたい。

■ 大津のバス停について、解体が冬の寒い時期だったこともあり地元で苦情がでている。

今後の予定は？

→工事の関係上夏以降に建設となる予定。トイレ付きで協議を進めている。

4 その他

◎新市 10 周年記念事業について支所長より口頭説明

5 意見交換

■歯科医師の冬場の通勤について懸念の声を聞いた。住民に迷惑がかからないよう一度医師と話をしてみてもいい。

→取り急ぎ医師に状況を聴取することとしたい。

■そうはいつでも、匹見に雪があることは承知の上で開業したはず。安易な基金の活用は好ましくない。

→まずは医師本人の話を聞くところから始めたい。もちろん安易に基金を活用することはないようにしたい。

■温泉の指定管理料について、前年度、美都が灯油値上がりにもなって予算化していた。匹見はなかった。今回の予算はどうなっているのか。基本的に美都と匹見は同様に扱うべきだと思うが。

→灯油値上がりに関して、指定管理料の組み立て方が違うため予算要求に至らなかった。平成 26 年度に指定管理契約の更新がある。その際、美都と同様のシステムを導入する方向で検討している。

■イベント経費についても美都と匹見の均衡をきちんと検証しているのか。匹見が基金を使いながらイベントしている一方、美都は一般財源をかなり使っているように見受けられるが。

→匹見の基金充当については 5 年前に議論され、年間 100 万円を基金からイベント事業充当するという判断がなされ、それにより予算化している。美都とのバランスは問題があると認識している。

■問題があればそこはきちんと声を上げるべき。地域協議会が援護射撃ができるくらいがらばってほしい。

→益田はイベントが多い。そのあり方含めて整理すべく現在論議しているところ。整理にあたっては一般財源の中で均等という考えをもって進められている。

■小さいところは予算はつけられないというのは大きな間違い。大きいところが小さいところを助けてやるという精神が一番大事。ぜひそういう精神を持ち合わせほしい。

■ 地域力アップ応援隊について。きちんと機能しているのか。漏れ聞く話は良い話を聞かない。円滑にいくようお願いしたい。

■ 地域力アップ応援事業補助金の交付のあり方についても疑義がある。どうなっている。
→ 各地区の状況を確認させていただきたい。

■ 地域力アップ応援隊は3年で打ち切りか。
→ 総務省の制度上、3年。また市の方針としても1人の隊員が1箇所張り付くのは3年が上限。

■ 合併未調整項目と言うのは？

→ 匹見地域でいえば温泉割引券が残っている。今後取り扱いについて地域協議会の中で提案させていただきたい。

■ 地域協議会と顧問制度について。これからの2年間で今後どうすべきか議論を深めていかななくてはいけないと思っている。

■ 空港利用助成は、必要なのか？継続する意義がないように感じる。

→ (委員より) いたしかゆしのところもあるが、飛行機があることによる恩恵もある。観光や工場誘致など。

【次回開催】

平成 25 年 5 月 28 日 (火)

※ 市長・副市長が出席の予定。